

研究課題：市町村行政が行う成人歯科健診の新たな実施方法に関する研究（3）

研究者名：柳川忠廣¹⁾、太田義隆¹⁾、中村宗達²⁾

所 属：¹⁾ 静岡県歯科医師会、²⁾ 静岡県東部健康福祉センター

【目的】市町村行政が行う成人歯科健診（歯周病検診）について、従来の方法に比べて受診率の高い新たな実施方法を開発する。

【方法】平成 25 年度は 2 地域 [S 市(人口 25 千人：海山村部) 及び A 市(人口約 40 千人：都市部)] で実施した。新たな改善策として、申し込み方法の簡略化を行った。

【結果】受診率改善の成果は認められなかった。

	S 市	A 市
事業対象者数	558 人 (65 歳全員)	923 人 (65 歳全員)
事業通知ができた対象者数	553 人	911 人
事業参加者数・受診者数 (率)	83 人 (15.0%)	74 人 (8.1%)

【まとめ・考察】本研究では、遡ること 4 年、平成 22 年度から、成人歯科健診（歯周病健診）受診率向上の妙案はないものか、各年 2 市においてリサーチを続けてきた。

<平成 22 年度から 25 年度事業までのまとめ>

[受診率を左右する要因]

1. スクリーニング型健診の導入【歯科医師による口腔健診を歯科衛生士によるアンケート方式のスクリーニング型健診に変えても受診率は上がらなかった。】
2. 健診対象年齢【不明。ただし、65 歳以上だと市町村事業としては事業費を調達しやすい。】
- 3-1. プレゼントグッズ：金額を示す（誇示する）【受診率向上に大きく貢献した。】
- 3-2. プレゼントグッズ：金額を示すが誇示しない、金額を示さない【受診率向上に貢献した。】
4. 夜や休日の実施【受診率に影響しなかった。】
5. 申し込み方法【受診率にほとんど影響しなかった。】

[受診率向上に必要と考えられること]

平成 22 年度からの 4 年間に行った工夫や対策で、唯一影響を認めたのは「歯科保健グッズの無料プレゼント」であった。「何故、受診率を上げられないか？」の最大の答えは、「対象者に受診の動機が欠落しているため」だと思われる。無料プレゼントは「無料で物がもらえる」という動機が働いた。この点に着目するならば、受診率を上げるためには、原点に戻って、本人に歯周病健診を受ける動機を与えることが必要ということだ。ここに地域歯科保健の必要性も強調できよう。

地域歯科保健活動は動機を誘発し歯周病健診の受診率を高める。このことから、反対に歯周病健診の受診率を地域歯科保健のバロメーターと考えてもおかしくないことではなく、日本における歯周病検診受診率の低さは、日本の歯科保健の低さを端的に表しているものと思われる。

[地域歯科診断の指標たり得る正しい受診率]

前段において、「歯周病健診の受診率は地域歯科保健のバロメーターとなる」と書いたが、この時、正しい受診率を用いる必要がある。受診率は、普通、行政の成人歯科健診（歯周病健診）事業における受診率と考えがちだが、実際には地域の歯科診療所で受診している人も多くいる。これらを併せた受診率で考えないと話はおかしくなる。

このため、本事業において、地域の真の歯周病健診の受診率をアンケート結果を用いて推計してみたところ、S 市、A 市で各々 24.8%、24.9% となった。残りの約 75% をいかに受診者に転換できるかが課題であり、8020 運動の真価が問われるところである。